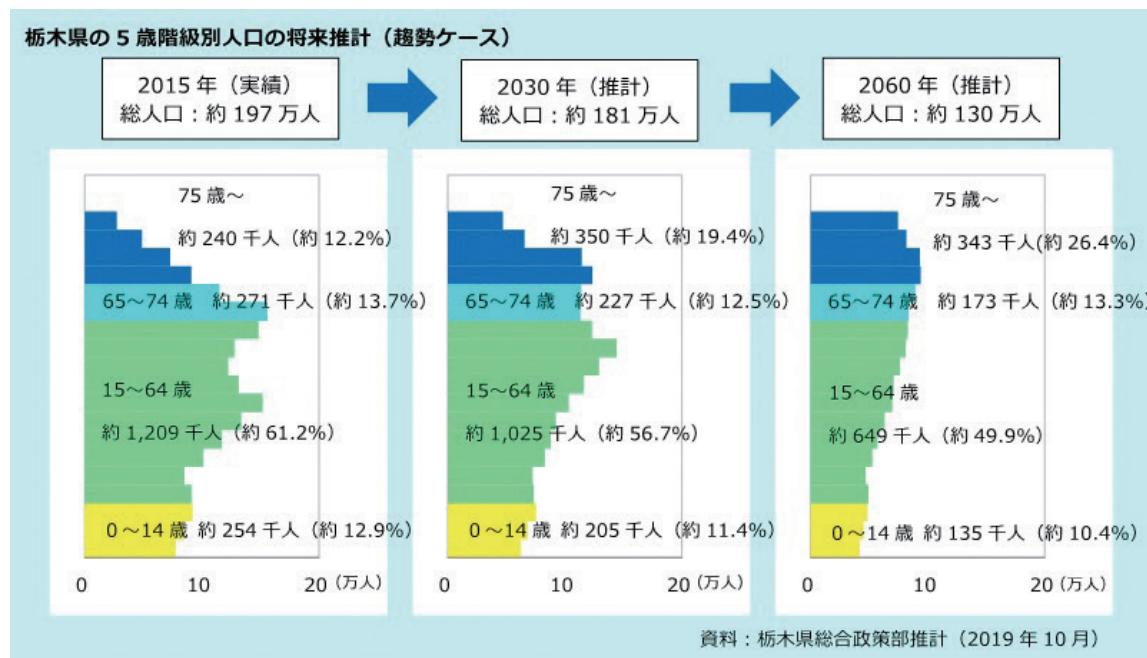


## 1 教育をめぐる社会の状況

### (1) 人口減少・高齢化



本県の総人口は、平成17(2005)年をピークに減少を続けており、総人口に占める高齢者の割合は増え続けています。

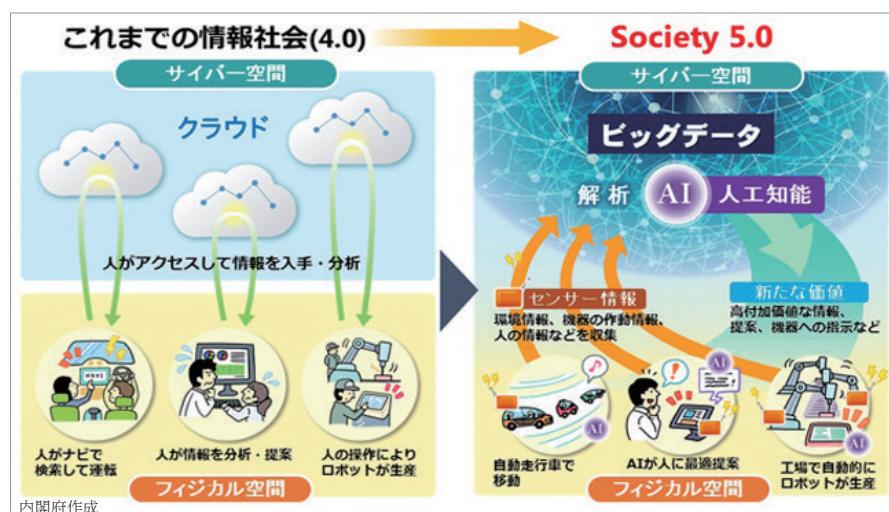
中でも20歳代前半が大幅な転出超過となっており、総人口に占める生産年齢人口の更なる減少が懸念されています。

社会の担い手が減り続けていく中、子どもたち一人一人にふるさとへの愛情や誇りを醸成し、社会を支えていくことのできる大人に育てるとともに、人生100年時代に向けて、全ての県民が生涯を通じて目標や生きがいをもって生きられるよう、生涯学習の機会や地域における活躍の機会を充実させていく必要があります。

### (2) 技術革新

IoTやビッグデータ、AI等の技術革新は、今後、私たちの社会や生活を大きく変えていくと予想されています。

そうした社会の変化に対応するため、児童生徒向けの端末と、高速大



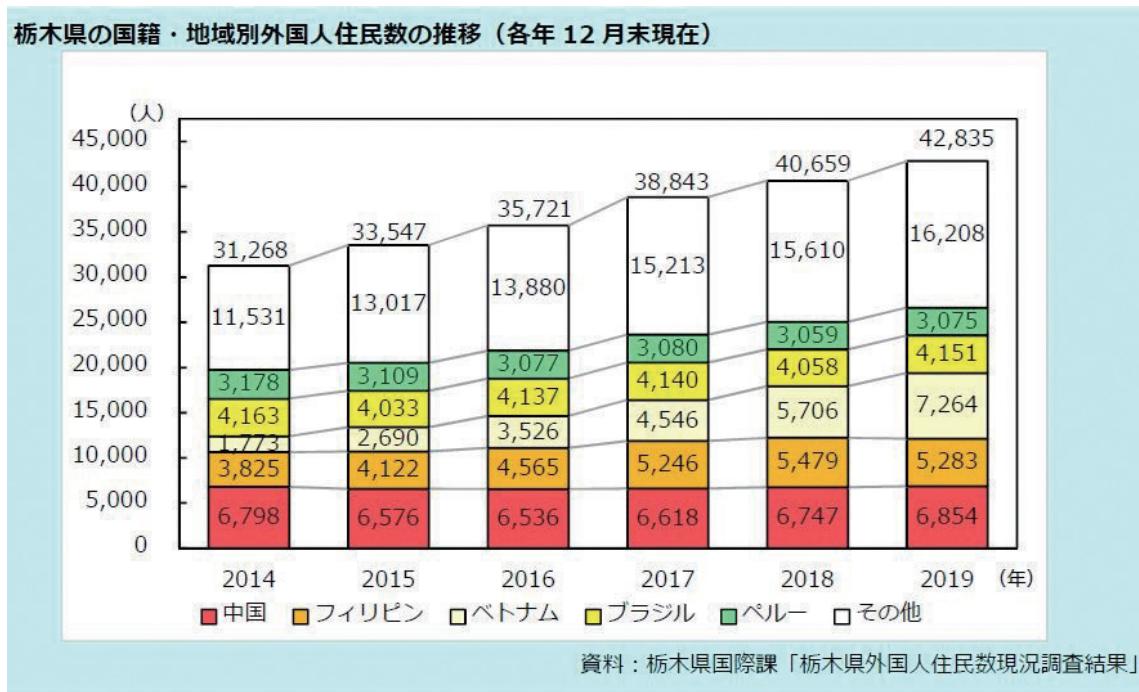
容量の通信ネットワークが各学校に整備され、個別最適な学びや創造性を育む学びに寄与とともに、特別な支援が必要な子どもたちの可能性も大きく広がると期待されています。

一方、子どもたちを見ると、情報の意味を吟味したり、文章の内容を的確に読み取ったりする能力に課題が生じているとの指摘があります。さらに、SNSを利用した犯罪に巻き込まれたり、意図せず犯罪に加担してしまったりするなどの事態も生じています。

進歩し続ける技術を使いこなしながら、膨大な情報の中から必要な情報を的確に読み取り、主体的に判断し生きていくために必要となる資質・能力を子どもたちに育んでいく必要があります。

同時に、多くの仕事が近い将来AI等に代替されると指摘されている時代だからこそ、他者と協働し、人間ならではの感性や創造性を發揮しつつ新しい価値を創造する力を子どもたちに育んでいくことが一層重要となります。

### (3) グローバル化



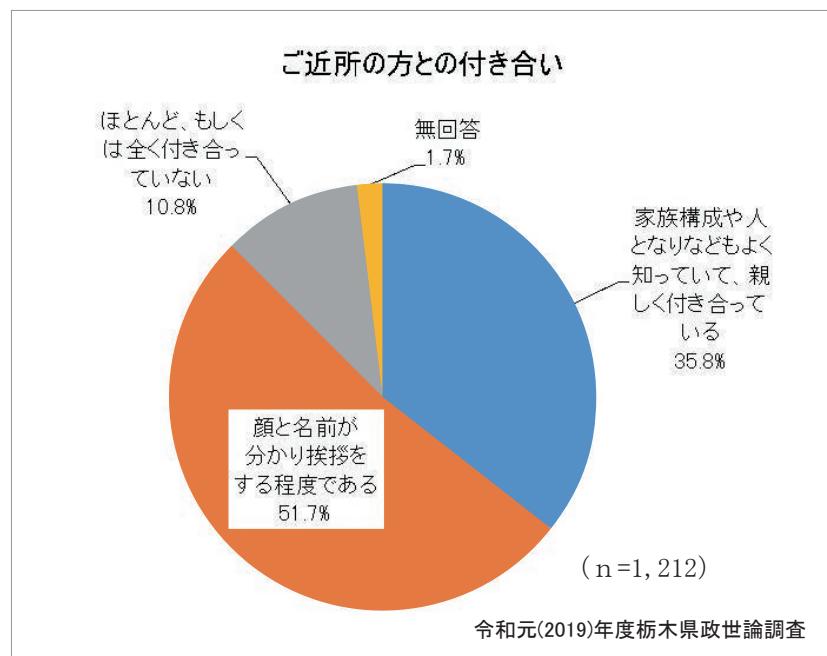
1990年代以降、社会のあらゆる面でグローバル化が進展してきましたが、令和2(2020)年、新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行し、人や物の動きが遮断されるなど、社会に深刻な影響をもたらしました。

今後の世界の動きを正確に予測することは困難ですが、我が国の持続的な発展のためにも、引き続き世界の国々と良好な関係を築きつつ、地球規模の課題解決に積極的に取り組み、平和で持続可能な社会の実現を目指していく必要があります。

国内では、人材としての外国人の重要度が増しており、本県も例外ではありません。外国人労働者及びその家族に対する生活・就労支援の充実が求められる中、県民一人一人が自他の文化や考え方を尊重し合う態度を培い、多文化共生の社会を築いていく必要があります。

#### (4) 地域コミュニティの変化

令和元(2019)年度栃木県政世論調査によると、近所の方との付き合いに関して、「顔と名前が分かれり挨拶をする程度」、「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」と回答した人が6割を超えていました。また、家族・親族以外に日常生活で困ったことを相談する相手が「いない」と回答した人が10.6%いました。地域における人間関係の一層の希薄化が懸念されます。



一方、社会貢献活動に「参加したことがある」、「参加したい」と回答した人は47.9%おり、地域・社会のために行動したいと考えている人が一定数いることが分かります。

平成29(2017)年度全国学力・学習状況調査の結果によると、本県の公立学校における保護者の行事参加率は、小学校が全国1位(97.8%)、中学校が3位(92.2%)でした。また、住んでいる地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合も全国平均より高くなっています。この素地を生かし、学校と家庭・地域が一層連携・協働して地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、そのことをきっかけとして地域住民相互のつながりを深め、地域社会の活性化を図る「学校を核とした地域づくり」の取組を推進していく必要があります。

#### (5) 自然災害、感染症等

近年、気温の上昇、大雨の頻度の増加など、気候変動及びその影響が全国各地で確認され、今後さらに拡大することが懸念されています。県内でも令和元(2019)年は「令和元年東日本台風」に伴う記録的な豪雨により、大きな被害が発生したことは記憶に新しいところです。

また、令和2(2020)年には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校が臨時休校となるなど、社会活動が大きく制限されました。

こうした予期せぬ事態に直面した際、自他の生命を守り、その後の困難な状況にも諦めることなく、周囲の人々と力を合わせて乗り越えていけるたくましさを子どもたちに育んでいく必要があります。

同時に、環境問題など社会問題に関心をもち、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できるよう、現代社会の諸課題について学び、持続可能な社会の在り方を考える学習機会、地域の課題を見いだし、解決の方法を考える学習機会等の充実を図る必要があります。

## 2 本計画の基本理念

「1 教育をめぐる社会の状況」で述べてきたとおり、現在、技術革新やグローバル化が急速に進み、社会の大きな変革期にあります。また、気候変動の影響などもあり、未来を正確に予測することは一層難しくなっています。そのような中でも、子どもたちには、明日に希望をもって、たくましく生きていくと願います。

予測困難な時代をたくましく生きていくためには、次のことが必要になると考えます。

### 自分の目指す未来を自ら描く力を身に付けること

例えば、実現したい夢や目標がある人、また、夢や目標というほど大きなことではなくても、「明日やりたいことがある」という人は、明日も生きたいと願うはずです。描く未来の大小にかかわらず、自分が目指す未来を自ら描けることは、その人の生きる力につながります。

しかし、目指す未来を描いても、描いたとおりに事が運ぶとは限りません。思わぬ困難に直面することもありますし、目指す未来の前提となる条件が急に変わってしまうこともあります。そのような時に、置かれた状況を受け入れ、目指す未来を書き直し、再び一步を踏み出せることは、困難を乗り越えるたくましさにつながります。

このような力を身に付けるためには、毎日の生活の中で、目標を立て、達成方法を考え、実践するという一連の経験ができるだけ多くさせる必要があります。その際、うまくいく方法や効率的なやり方を安易に教えるようなことはせず、まずは、本人が立てた計画どおりに実践するのを見守ることが極めて大切です。その上で、うまくいかないときには、なぜうまくいかないのかを考えさせ、計画を修正し、もう一度挑戦する機会を与えます。このような経験の積み重ねが、自分の目指す未来を自ら描く力を養います。

### 描いた未来を実現するために必要な力を身に付けること

描いた未来を実現するために必要な力とは、例えば、問題の本質を把握し自ら問い合わせを立てる力、解決の見通しを立てる力、膨大な情報の中から必要な情報を選び収集する力、収集した情報を整理・分析し解釈する力、答えが一つに定まらない問題にも自ら解を見いだしていく力などです。このような力は、学問的な探究をする際はもちろん、仕事や生活上の課題を解決する際にも必要となります。また、こうした力を身に付けることによって、目指す未来を描く際にも、単に目指す結果だけでなく、実現までの過程を含めた、より具体的な描き方ができるようになります。

このような力を身に付けるためには、毎日の学習の中で、自ら問い合わせや仮説を立て、協働的な学びの中で互いの考えを出し合いながら、その検証の方法や手順を考え、考えた方法や手順に従って検証、考察して結論を出すなどの経験をできるだけ多くさせる必要があります。

## 多様な他者と協働して創造する力・心の豊かさを身に付けること

多様な他者と協働して新しい価値観や行動を生み出すためには、例えば、自他の価値観や考え方を尊重し合う態度、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、自らの課題を乗り越えつつ他者と協働して物事を成し遂げる力などが必要となります。

こうした力を身に付けるためには、多様な他者との関わりの中で育ち、心の豊かさを養うことが極めて重要です。多様な他者との触れ合いは、子どもたちに自他の生命尊重や他者への思いやりの心などを育みます。

また、地域の多くの大人が子どもたちに関わり、一人一人の挑戦や頑張りを認めることで、子どもたちは小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感や自己有用感を高めることができます。

生まれ育った地域での豊かな体験や人々との心のつながりは、ふるさとへの愛情や誇りを醸成し、その後の人生において、様々なことに挑戦する際の「心のよりどころ」になるはずです。

以上の考えに基づき、今後5年間の本県の教育施策推進の基本理念を以下のとおりとします。

### — 基本理念 —

**とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます**

本県には30年以上にわたって「いきいき栃木っ子3あい運動(※1)」を展開してきた歴史があります。この土壤を生かし、生涯を通じた学びや、学びを生かした活動を通して地域の人が豊かな人間関係を築き、学校・家庭・地域の連携・協働を一層推進して子どもたちを育んでいきます。

(※1) **いきいき栃木っ子3あい運動** 豊かな人間関係を築くことにより、いきいきとした栃木の子どもたちの育成を図ることを目的として、「学びあい 喜びあい はげましあおう」をスローガンに、昭和62(1987)年度から県内全域で展開している本県独自の教育運動。平成11(1999)年度からは、大人が子どもに関わる「3あい運動」の具体的実践として、「栃木の子どもをみんなで育てよう」運動を展開している。



### 3 基本目標

本計画の基本理念を具現化するため、以下 I ~VIの基本目標を設定します。

#### ～全ての教育活動の前提として～

##### 基本目標I 学びの場における安全を確保する

本県では、平成 29(2017)年 3月 27 日に発生した那須雪崩事故により、生徒 7名、教員 1名の尊い命が失われました。このような痛ましい事故を二度と起こしてはならないという決意の下、学校における全ての教育活動の安全管理の徹底と安全教育の充実に取り組み、学びの場における安全の確保を図ります。

##### 基本目標II 一人一人を大切にし、可能性を伸ばす

全ての子どもたちが様々なことに積極的に挑戦し、自分の可能性を伸ばしていくためには、自分の思いや考えを安心して表現できる場、存分に力を発揮できる場が保障されていることや、ニーズに応じた適切な指導・支援を受けられることが必要です。そこで、人権尊重の精神を育む教育、多文化共生に向けた教育を推進するとともに、特別支援教育や日本語指導の充実を図ります。

#### ～子どもたちにたくましさを育むための具体策として～

##### 基本目標III 未来を切り拓く力の基礎を育む

予測困難な時代をたくましく生きていくためには、基礎的な知識・技能に加え、主体的に学び続ける力が必要となります。また、困難に負けず、時に協働して物事を成し遂げるためには、心の豊かさも必要です。さらに、体力は人間の活動の源であり、精神面の充実にも大きく関わっています。そこで、これらをバランスよく育成することを通して、未来を切り拓く力の基礎を育んでいきます。

##### 基本目標IV 自分の未来を創る力を育む

よりよく自己実現を図っていくためには、社会との相互関係を保ちつつ、自分らしい生き方を展望し、実現していくことが大切です。そこで、学校や家庭、地域など、所属する集団の中で自分の役割を考え、実践することや、家族や社会の一員としての役割を考えることなどを通して自身の生き方についての考えを深め、自分の未来を創る力を育んでいきます。

##### 基本目標V 豊かな学びを通して夢や志を育む

人が夢や志をもつとき、そこには、それまでの認識を新たにするような学びや体験があります。そこで、学びたいときに学ぶことのできる生涯学習社会の実現を目指すとともに、学ぶ人の世界を広げ、さらに広げたくなるような学び、新たな夢や目標につながるような体験など、豊かな学び・体験の機会を提供し、子どもから大人まで、一人一人の夢や志を育んでいきます。

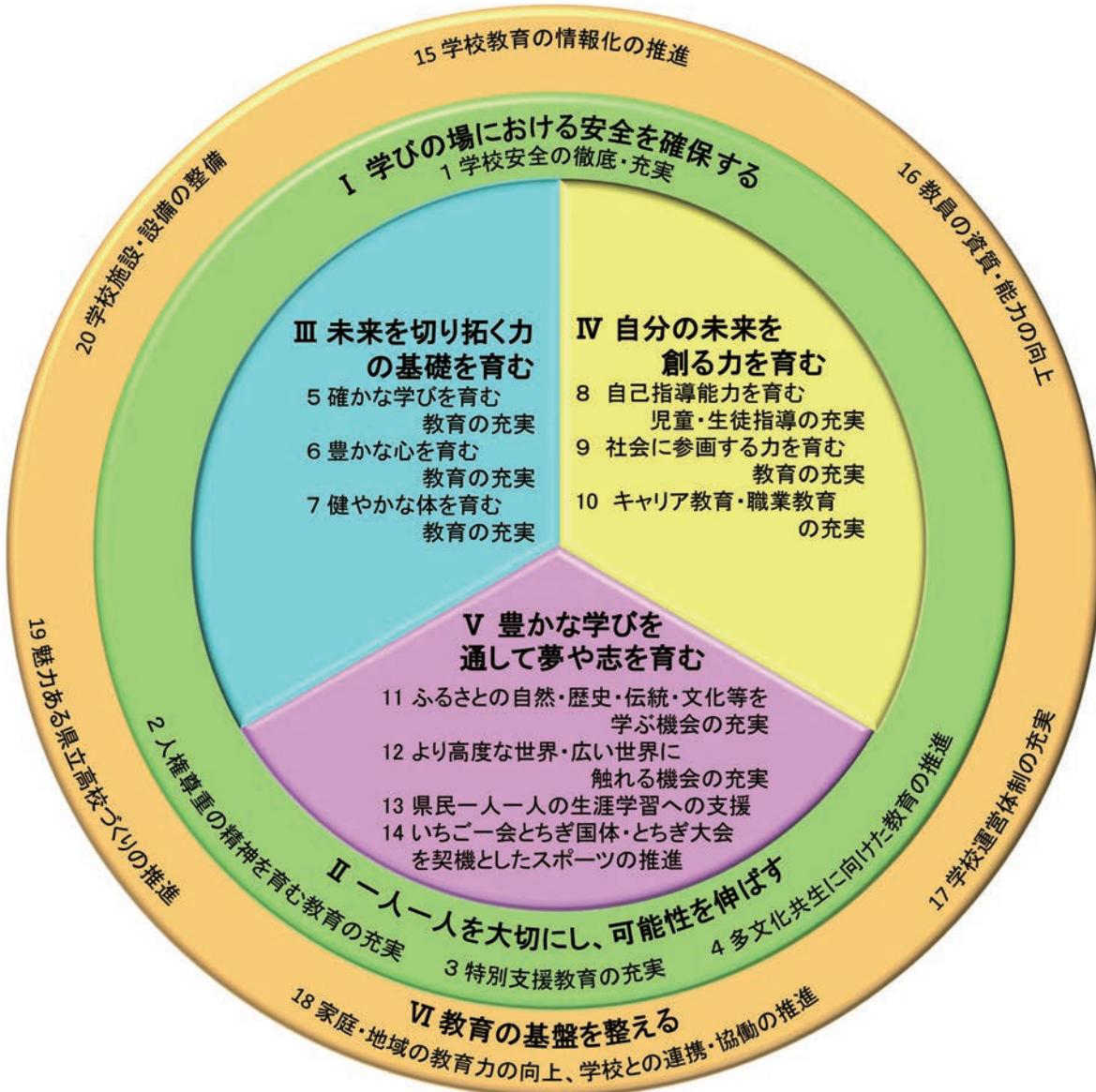
## ～各取組を効果的に推進するために～

### 基本目標VI 教育の基盤を整える

教員一人一人が自らの職責、経験及び適性に応じて資質の向上を図り、今日的な課題にも対応していくことができるよう研修の充実を図るとともに、教員が本来担うべき業務に専念できるよう学校における働き方改革を推進し、学校運営体制の充実を図ります。同時に、学校・家庭・地域の連携・協働を一層推進し、家庭・地域の教育力の向上を図ります。また、魅力ある学校づくりを推進するとともに、児童生徒が安全に学校生活を送れるよう、学校施設・設備の整備を進めています。

### 【関係図】

各基本目標を相互の関係で表すと以下のようになります。教育基盤の充実に関する目標VIの上に、どのような教育を目指すかにかかわらず、常に前提として考えるべき目標I、IIを位置付け、さらに、基本理念の実現に特に関わりの深い目標III～Vを位置付けています。



## 4 施策体系

